

にしさいたまちゅうおう



Vol.18(第18号)

発行：独立行政法人国立病院機構
西埼玉中央病院
発行日：平成20年4月
発行責任者：竿代丈夫

〒359-1151 埼玉県所沢市若狭2-1671 TEL 04(2948)1111 / FAX 04(2948)1121 <http://www.hosp.go.jp/~wsaitama/>



「春爛漫」 撮影者：秋山峻太郎(ボランティア)

「当院から南西約5kmの狭山丘陵の片隅に樹齢100年(?)の見事な山藤の古木があります。石造りの棚も当手を惚ぼせませす。」

CONTENTS

■新任幹部職員挨拶	2
■医療よもやま話		
「かくれメタボリックシンドロームをみつけよう」	3
■「よろしくお祈いします！」 ～新任医師紹介～	5
■第6回医療連携交換会の報告	6
■看護学校卒業式「第32回生を送り出して」	7
■編集者の独り言	8
■インフォメーション ～ボランティア募集～	8
■ご案内(案内図)	8

基本理念

“病む人に心の通う ^{かよ} 質の高い医療をめざします”

お手持ちの携帯電話でも当院の診療情報の一部がご覧いただけます。



新任幹部職員挨拶



事務部長
弓削 智夫

4月1日付をもちまして事務部長を拝命いたしました弓削智夫（ゆげともお）と申します。前任地は、東京の築地にごさいます国立がんセンターであります。当院が担うべき政策医療の一つであるがん診療の専門病院であったことから、今後はがん診療において、側面よりお役に立てればと思っております。

この度、事務部長として経営及び運営部門を任されたわけですが、先ずは当院の当面の課題であります新病棟建設に向け、早急に対応していきたいと考えております。もう既に準備は整っており、後は入札という段階まできていることから、工事着工に向け最優先で取り組んでいきます。

また、竿代院長の下、質の高い医療を地域の皆様へ提供できるよう経営面でサポートをしていく方針であります。更には、少しでも早く院内の現状、地域の医療状況等を把握し、医療だけではなく患者さんへの様々なサービスや快適な医療環境を提供できるよう努めていきたいと思っております。

私は、常に患者さんの目線に立ち、患者さんの様々なニーズに少しでもお応えできるよう、そして地域の皆様に愛される病院作りに努力していく所存でありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長
森田 展子

この度、高崎病院附属看護学校より西埼玉中央病院に異動してまいりました。

先日、病院を訪れました折には病院前の白木蓮の美しさに足を止めてしばし眺めてしまいました。

私は、臨床の現場は5年ぶりとなります。それまでは看護教育に携わり、国立病院機構の看護学校の教育目的である「国立病院機構及び社会に貢献できる人材の育成」に取り組んでまいりました。今後は看護部長として病院の基本理念である「病む人に心の通う質の高い医療をめざします」を実現するために日々努力していきたいと思っております。

目的達成に向けてそれぞれの部門が効果的に運営できるようコミュニケーションを良く連携を深め患者様のためによりよい看護が提供できるように精一杯努力していきたいと思っております。皆様と一緒に働けることをとても嬉しく感じております。

どうぞよろしくお願い致します。



薬剤科長
吉本 文男

4月1日付けで、東京医療センターより転任して参りました吉本文男（よしもとふみお）と申します。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

前施設の薬剤科スタッフは当院からの異動で着任された方が多く（榛葉哲男、田島芳夫、荻野万人、吉川至、高西優子の各氏また管理課長の小嶋美之、看護師長の亀尾慶子、戸谷益子、七田みどり、臨床検査技師長の奥田勲の各氏も）、職種間の連携がととも良好な環境と伺っております。

薬剤科を管理する者としては着任早々で緊張の毎日です。不慣れかつ未熟な点も多いと思いますが、みなさまのご支援、ご指導をいただきながら1日も早く薬剤科長として機能できるよう努力したいと思います。私は「迷った時は前に出る!」というモットーをいつも念頭におき、優秀な仲間たちと協力しながら、より一層上質な薬剤科を目指します。

住まいは東京都日野市、趣味は音楽鑑賞とウォーキング、城巡り。映画と野球も大好きです。いまひとつ、食べ歩きも生きがいのひとつだったのですが今年になって日頃の不摂生がたまって血糖値が少々高めになってしまいました。甘いものや揚げ物は敬遠し、今はちゃんこ鍋が大好きになりました。

医療職が不健康では患者さんとお話をしていても説得力がありません。スタッフの健康管理にも配慮しつつ来院される患者さんのお役に立てるよう、職能を生かした業務実績を構築できるよう薬剤科一丸となってがんばります。



企画課長
藪口 順一

4月から東長野病院より配置換えになりました藪口（やぶぐち）です。

埼玉県で勤務するのは今回が初めてのこととなりますが、近隣の地域では昭和62年から平成4年まで清瀬にあります旧国立療養所東京病院で勤務していました。

当時は所沢球場でビールを飲みながら野球観戦した思い出があります。

清原・秋山、工藤選手がいた当時で西武の黄金時代ではなかったかと思います。

私のプロフィールは、生まれは北海道中標津町で、現在は栃木県高根沢町に住んでいます。残念ながら今回は単身赴任ということになります。

千葉県にある国府台病院に採用されてから、習志野、東京、東栃木、西小千谷、小諸、高崎、栃木、東長野そして西埼玉中央病院と10病院目の勤務となります。

現在、西埼玉中央病院は新病棟建て替えに向けて職員の皆様の志気が高揚し病院全体も活気が溢れていると聞いております。

私も微力ではございますが、確固たる黒字経営基盤の確立と新病棟建て替えに向けて、皆様と一緒に頑張る所存でございます。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

かくれメタボリック シンドロームをみつけよう



医療情報部長 成宮 学

「高齢者の医療の確保に関する法律」の改正により、平成20年度から医療保険者は、40歳以上の加入者に対し、糖尿病等の生活習慣病に着目した健康診査及び保健指導を実施することが義務付けられました。

今回はその関連として、糖尿病等の生活習慣病が専門である成宮医療情報部長に記事を依頼しました。

2005.4.8. メタボリックシンドローム(MetS)の診断基準

日本版


ウエスト径
 男性 ≥ 85 cm
 女性 ≥ 90 cm
 (内臓脂肪面積 $\geq 100\text{cm}^2$ 相当)

上記に加え
 以下のうち**2項目以上** (+)
 (男女とも)

高トリグリセリド血症 ≥ 150 mg/dL
 and / or
 低HDLコレステロール血症 < 40 mg/dL

収縮期血圧 ≥ 130 mmHg
 and / or
 拡張期血圧 ≥ 85 mmHg

空腹時高血糖 ≥ 110 mg/dL



**MetSを放置すると
心血管病につながる**

【メタボリックシンドローム診断基準検討委員会 日本内科学 94 (4) 794-809 2005】

高コレステロール血症に対する対策がほぼ確立されてきた現在、メタボリックシンドロームは、心血管疾患の重要な予防ターゲットであり、生活習慣の乱れが関与する多くの病態を含むことから、多数の分野から注目されています。わが国でも2005年4月、独自の診断基準が発表されました(図)。メタボリックシンドロームの診断は、図の診断基準に基づいて診断されますが、メタボリックシンドロームの

診断を満たす有病者ならびに脂質異常、高血圧、高血糖のいずれか一つを満たす予備群が、40~74歳の男性の2人に1人、女性の5人に1人に達することが、2006年5月8日、厚生労働省の平成16年国民健康・栄養調査の結果から明らかとなりました。同年齢層の有病者と予備群は、およそ2000万人存在することが推定され、環境の欧米化に伴いメタボリックシンドロームが国民の中に深く蔓延してきて



おり、その対策が急務であることがこの調査で初めて浮き彫りになりました。

平成16年国民健康・栄養調査は2004年11月、無作為に選んだ全国の20歳以上の男性1549人、女性2383人を対象に実施されました。その結果、20代、30代では、有病者、予備群あわせても、男性で2割程度と少なく、さらに女性では該当者はほとんどみられませんでした。しかし、男女とも、40歳以上になると、有病者、予備群の割合が増加し、年代が高くなるほど増加する傾向が認められました。そして40歳～74歳の年齢層でみると、男性の25.7%が有病者で、予備群をあわせると51.7%に達しました。一方、女性では10.0%が有病者で、予備群をあわせると19.6%に達しました。

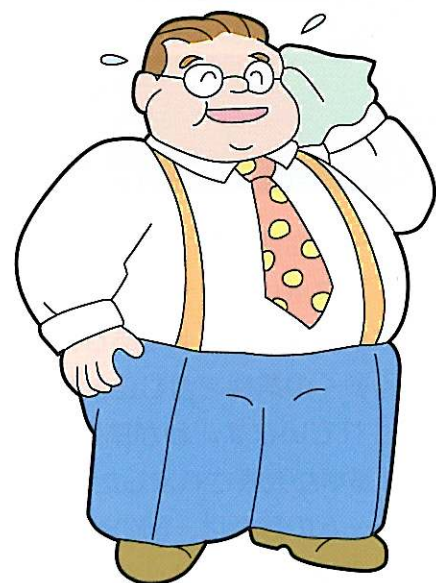
また、腹囲が基準を超えているものは、超えていないものに比べ、三つのリスクのうち二つ以上該当する割合がいずれの年代でも高く、内臓脂肪の蓄積と相関が高い腹囲とリスクの関係が、この調査の結果から裏付けられました。

この結果の背景として、厚生労働省生活習慣病対策室は運動習慣の減少と食生活の変化をあげています。

それを裏付ける結果が同時に実施された調査で明らかとなっています。調査の結果、1回30分以上の運動を週2回以上、1年以上続けている運動習慣のある成人は男性で30.9%、女性で25.8%と少なく、30～40歳代でみるとその割合はさらに低下して10%代にすぎませんでした。また総エネルギー摂取量のうち、肉類など脂質からの摂取が25%以上の脂肪摂取過多のものが46.4%に達しています。

厚生労働省ではすでに、医療費抑制の狙いも込め、平成20年度からメタボリックシンドローム対策に本腰を入れることを決定しています。その一環として、平成20年4月から特定健診・特定保健指導が実施され、かくれメタボリックシンドロームの発見と指導が始まります。この判定では、メタボリックシンドロームの人は、積極的支援、予備群の人は、動機づけ支援となっています。腹囲が基準を充たさない場合でもBMIが25以上では、リスクが3項目以上を充たす場合には積極的支援、1～2項目を充たす場合動機づけ支援となっています。またリスク項目のうち、高血糖に関しては、最近の成果を加えて、HbA1c5.2%以上か空腹時血糖値100mg/dl以上という厳しい基準になっています。さらに従来のリスク項目が1つ以上ある場合には、喫煙歴ありも項目に新たに追加されています。また高血糖、高脂血症、高血圧で薬剤治療を受けている場合はリスク項目にカウントされます。

動機づけ支援では自分で生活習慣の改善点に気づき、目標設定し、それを行動に移すために必要なサポートが受けられるようになります。原則として1回の保健指導が行われます。積極的支援では、健診の判定を改善するために、実践できる目標を自分で選択して、継続的に実行するために必要なサポートが受けられます。そのために、3～6ヶ月間、積極的な保健指導が行われます。



よろしくお願ひします！

～新任医師紹介～



内科医師
ひき けんじ
比企 能人

この度、西埼玉中央病院代謝内科に勤務する事になりました、比企能人と申します。

平成13年に日本大学医学部を卒業し、東京都立駒込病院にて初期研修・専門研修を3年間行った後、東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科にて大学院4年間を膵β細胞の再生医療をテーマとした研究に没頭致しました。

研究生活から一転し臨床への復帰となりますが、皆様方にご迷惑をお掛けしないよう日々精進して参る所存であります。

西埼玉中央病院では、『病む人に心の通う 質の高い医療をめざします』という基本理念に基づき、患者様中心の高度かつ安全な医療を提供できるよう努めて参りたいと考えております。

当科で診療する糖尿病、肥満など生活習慣病の治療は杓子定規な療養指導では改善せず、まさに心の通った診療が不可欠です。成宮部長を中心に、人間の弱さを前提とした診療で『浮き輪に頼らず、泳げない人が水と格闘しながら泳げるようになり、泳げる喜びが味わえる』ように患者様とともに格闘して参りたいと思ひます。

また私生活におきましては、高校・大学・社会人とラグビーと格闘して参りました。体力だけは自信がありますので院内で暴漢・痴漢が出現した際はご一報頂けますと幸いです。

浅学非才の身ではございますが、何卒、御指導御鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。



循環器科医師
たけもと ともゆき
武本 知之

この度、西埼玉中央病院循環器科に配属となりました武本知之です。

私は平成16年に東京慈恵会医科大学を卒業し、大学附属病院にて初期臨床研修および後期臨床研修を行ってまいりました。附属病院以外での勤務は今回が初めてであり、これからは一人前の内科医としての判断が求められることになると思ひます。

まだまだ経験も浅く、戸惑うことも多々あると思ひますが、多くの貴重な経験が積めると考えております。後期臨床研修の最後の一年が充実したものとなるように日々の診療に精進していきたいと思ひます。医師として未熟で不慣れな点も多々あるため、関係者の方々には色々ご迷惑をお掛けすることと思ひますが、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。



消化器科医師
おたき けんじ
小田木 勲

この度、東京慈恵会医科大学附属病院より西埼玉中央病院消化器内科に配属になりました小田木勲と申します。

私は、平成14年に東京慈恵会医科大学を卒業後、慈恵医大付属病院にて2年間の初期臨床研修を行い、3年目より慈恵医大臨床大学院へ進学いたしました。消化器内科を専攻し、最新の拡大内視鏡を用いた研究に従事しつつ、消化器内視鏡診断および治療の臨床経験を積んでまい

りました。

後期臨床研修および大学院を修了した後、これまで慈恵医大付属病院本院にて消化器内科医として勤務しておりました。今回、大学病院以外の勤務は初めてであります。

これまで専門分化された医療機関で勉強してきた私にとりまして、消化器にとどまらず多岐にわたる疾患に対応し、総合的な視点で病態を把握することは今後のステップアップに必要不可欠であると考えております。

まだまだ未熟で色々ご迷惑をお掛けすることも多々あると思ひますが、何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願ひ申し上げます。



消化器科医師
みやざき たみひろ
宮崎 民浩

はじめまして。この度、東京慈恵会医科大学より赴任いたしました、宮崎民浩と申します。

私は、平成17年に日本医科大学を卒業後、初期臨床研修医として東京慈恵会医科大学附属病院で研修を行い、平成19年からは後期内科レジデントとして東京慈恵会医科大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属第三病院にて内科ローテーション(循環器、呼吸器、神経、腎臓内科)して参りました。

西埼玉中央病院では、これまでの3年間とは環境が一変することから、最初はいろいろご迷惑をおかけしてしまうかと思ひますが、多くの先生方にご指導頂きながら日々、精進していこうと思っております。西埼玉中央病院では、消化器内科医として、病棟管理から外来診療、内視鏡・超音波などの検査業務、当直業務などを担当致します。

自分にとってはチャレンジな一年になるかと思ひますが、日常業務を通じ成長していきたいと考えております。

まだまだ未熟者ではありますが、患者さんに頼られる医師を目指し努力して参りますので、どうかご指導の程宜しくお願ひ致します。



消化器科医師
なかがわ りょう
中川 良

この春より東京慈恵会医科大学より西埼玉中央病院消化器科に配属となりました中川良です。

私は平成17年に聖マリアンナ医科大学を卒業し、同付属病院で2年間の初期臨床研修を行いました。平成19年より東京慈恵会医科大学付属病院へ就職し、内科レジデント研修を行っています。今回、後期臨床研修の一環として西埼玉中央病院でお世話になることとなりました。

西埼玉中央病院のような地域に密着した病院で学ばせていただくことは大変貴重で、私の医師としての礎となると思ひます。まだまだ、未熟で不慣れな点も多々あると思ひますが、みなさまのために精一杯頑張りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。

第6回医療連携交換会の報告

放射線科医長（前地域医療連携室長） 古川 雅彦



2008年2月21日木曜日に医療連携交換会を開催しました。

講演会では以下の2演題の発表がありました。要旨を掲載します。

講演(1) WHO治療法と看護師の役割

がん疼痛看護認定看護師 児玉 奈央

3人に一人ががんになるといわれている現在、がんに対するきめ細かな看護は重要といえます。エビデンスに基づいた看護を提供するには正しい知識を得ることが重要と考えます。そこで今回はがん治療のゴールドスタンダードであるWHOがん疼痛治療法についてお話ししました。また、がん疼痛に対するペインマネジメントを検討していく場合は、鎮痛薬を適切に使用することが大前提になります。看護師は24時間患者の側にいるため鎮痛薬の効果や患者に現れている不快な症状や副作用を患者とともにきめこまかに観察・アセスメント・評価できると考えられます。従って、薬物療法における看護師の役割のポイント、モルヒネ使用時には必要不可欠な副作用の予防と対策についてお話ししました。

WHOがん疼痛治療法が確立したこと、様々な医療用麻薬の開発によりがんの痛みの治療は日々進歩しています。痛み止めを正しく使うことで辛いがんの痛みに十分対応できるよ

うになってきています。適切にがんの痛みの治療・看護を行うためにも痛みは我慢せず私達医療者に伝えてほしいと思います。

講演(2) 前立腺のお話し

泌尿器科 病棟診療部長 辻 明

今回の医療連携交換会において、開業医の先生が診療されている前立腺疾患で、西埼玉中央病院泌尿器科に紹介して頂くタイミングや、紹介患者さんの検査や治療結果などをお話ししました。

前立腺肥大症では、1. 薬物治療にて効果が得られないこと、2. 前立腺体積、特に中葉肥大が大きくて患者さんが手術を希望すること、3. 尿閉を繰り返すことが手術適応として考え

られます。このような患者さんがいましたら当院に紹介して頂ければ幸いです。当院では、紹介患者さんは全て前立腺腫瘍マーカー（PSA）を測定し、癌の可能性が低いことを確認したのち抗アンドロゲン薬を投与し、その後に経尿道的前立腺切除術（TUR-P）を行っています。過去4年間で、173名の患者さんにTUR-Pを施行しました。平均年齢は71.8歳、前立腺平均体積は48.2 ml、尿閉の既往がある患者さんが半分以上でした。

次に、PSA高値で当院に紹介された患者さんの検査及び治療の流れをお話ししました。初診時に術前検査を至急で行いますので、午後には検査結果を確認し、2泊3日の経直腸の前立腺針生件の予定を立てます。次回の来院は検査前日の入院日で、退院の2週間後に病理診断結果を外来でお話しします。当院で過去4年間に行った前立腺針生件の患者さんは580名で、213名（36.7%）に癌が発見されました。内訳は、PSA<4が28名中5名、4<PSA<10が325名中75名、PSA>10が227名中134名で癌が見つかっています。

当院泌尿器は、紹介率も逆紹介率もお陰様で50%を越えています。我々は埼玉西地区の基幹病院の一つとして、患者さんの身近にいる「かかりつけ医」との連携を深めながら、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供し、病気の治療や早期発見に努めています。

今後とも、よろしくお願い致します。

講演会終了後、懇親会を行い、関連医療機関の医師と当院職員の親睦を深めました。

第32回生を送り出して

教員 矢吹 美樹

先日、無事に32回生37名が卒業の日を迎えました。あいにくの天候の中での式となりましたが、いつも元気な卒業生達はみな寂しさの中にも晴れ晴れとした表情で学校を去っていきました。

そんな卒業生ひとりひとりの顔を見ていると、これまでの学校生活が思い起こされ、非常に感慨深く、これからの苦しくも輝かしい未来に向かって立派に成長していった欲しいという気持ちを込めてひとりひとり見送りました。

思うようなケアができずに涙していた学生、毎日何時間も個別指導を受けていた学生、看護師としての進路に悩んだ時期もあった学生、患者様のためにパンフレットを作成したり、遅くまで図書室で調べものをしていた学生……。お世話になった講師の方々、そして実習で受け持たせていただいた多くの患者様には、看護師として必要な知識や技術のみ

ならず、社会人として人間としての成長を支えていただきました。ここで過ごした月日は彼らにとってきっとかけがえのないものとなり、これからの人生にきっとプラスになることなのでしょう。本当にありがとうございました。

4月からは、1年目とはいえ看護師としての責任と役割を果たしていく日々が始まります。きっと初めは、とまどったり、緊張や不安の連続だったり毎日がめまぐるしく過ぎていくと思います。

そんなときには、ここでの思い出や学んだことを忘れずに、臨床での様々なひととの出会いやかかわりを大切にして、自分なりの目標をもって看護師としての日々を過ごされることを心から願っています。いろいろとご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、今後ともご指導、ご支援をよろしくお願ひします。



職者の ひとり言

平成20年も4月を迎え、入学・就職・転勤と新生活のシーズンとなりました。

当院でも多くの新規採用職員及び人事異動者をお迎えし、新たな年度がスタートしたところであり、今号は新しく当院の一員となった職員の紹介記事を中心に掲載させていただきました。

また、平成20年度は旧国立病院・療養所が平成16年度に特定独立行政法人国立病院機構に移行してから5年目で、5カ年中期計画の最終年度という節目となり、さらに来年度(21年度)は次期中期計画の初年度及び非公務員化(現在検討中)など、国立病院機構は変革の時代を迎えることとなります。

当広報誌は、『必要な医療情報・職員の紹介・病院行事』などの話題を地域の皆様及び関係機関等に引き続き定期的にお知らせしてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(管理課長)



インフォメーション

INFORMATION

■ボランティア募集

外来患者様のご案内や、入院患者さまのお話相手などのボランティアを募集しております。詳しくは管理課庶務班長又は副看護部長までお問い合わせください。

TEL04-2948-1111 内線 211(庶務班長)、204(副看護部長)



ご案内

- 診療受付時間 8:30~11:00
- 休診日 土・日・祝日及び年末年始
- 当院の救急輪番日

内科・外科系	毎週月・木曜日
小児科	毎週木曜日
- 当院への交通
西武池袋線
 - (1) 小手指駅南口: 狭山ヶ丘駅行または箱根ヶ崎駅行
バス7分(西埼玉中央病院下車)
 - (2) 狭山ヶ丘駅西口: 小手指駅南口行バス7分(同上)
・いずれもタクシーの便あり・池袋から、急行35分